信州産ヒミズの新亞種に就きて

八 木 貞 助

ヒミズ屬は本邦固有の哺乳類と認められ、其の既知の種類及び産地は次表の如し。

1) キウシウヒミズ	<i>Urotrichus talpoides</i>	TEMMINCK	九州
2) ツシマヒミズ	<i>U.</i>	<i>t. adversus</i>	對馬
3) シコクヒミズ	<i>U.</i>	<i>t. centralis</i>	四國
4) ホンシウヒミズ	<i>U.</i>	<i>t. hondonis</i>	本州

然るに昭和二年一月上旬長野縣戸臺の獵師竹澤長衛は赤石山塊の北端仙丈岳と東駒岳との鞍部を通ずる北澤峠の登山小屋(海拔約 2000 米)に於て、前表の種類と著しき差異を示せる一新ヒミズの牝二頭を得たり。予の入手せる時は死後日を経たる爲、腹部に脱毛せる部分ありき。予は此れを次の如く命名せんと欲す。

Urotrichus talpoides shinanensis YAGI 1927, nov. subsp.

標準和名 シナノヒミズ〔八木貞助新稱〕

此の新亞種のヒミズを既知の四亞種に比較するに彼等が頭胴全長 90 耗内外にして、最小のものと雖も 70 耗を超え、其の尾長は平均 27—33 耗を算するとは大に異り、此に於ては頭胴全長平均 62 耗を示し著しく短く、反對に尾長 46 耗に達し頗る長し。但し四肢の形態に於ては敢へて相異を認めず。

次に本州産なるホンシウヒミズとの比較を表示すべし。此れは特に必要ならんと信ず。

ホンシウヒミズ及びシナノヒミズの測定上の比較表

摘要 亞種	性	頭 胴	尾	後 足	前 足	産 地	測 定 者
ホンシウヒミズ	♂	91.0	26.0	14.0	?	静岡縣	岸田氏
シナシヒミズ	♀	61.0	45.0	14.0	10.0	長野縣	著 者
シナノヒミズ	♀	63.0	46.0	16.0	12.0	長野縣	著 者

附記 1. ホンシウヒミズと新亞種シナノヒミズとは頭胴の全長に於て相互に 3:2 の比をなすも、尾は殆ど 1:2 の比を示せり。

又ホンシウヒミズの脊の毛は 5.5—6.0 耗なるに、シナノヒミズに於ては 8.0—9.0 耗を算し著しく長く、且つ毛色に於ても相異りて漆黒色のものと黒色に稍々褐色を帯べるものとあり。尾端の剛毛も殊に著し。

以上の特徴はヒミズの何亞種に比するも明瞭に此を區別するを得しむべし。

尙ほ習性に就きて見るにホンシウヒミズは一般に山近くの畑地に棲息するに對し、シナノヒミズは高山の深谷に棲めるの差あり。

附記 2. シナノヒミズの胃中の食物を検せしところ、既に大部分消化し居りて明かには定め難けれ共、顯微鏡下の所見に依れば節足動物(昆蟲及び蜘蛛)のキチン質皮殻の破片及び少量の植物韌皮纖維等を認めたり。

附記 3. 此の新亞種は尙ほ伊那町西方權兵衛峠附近にも棲息するものの如し。

附記 4. 予は本種に近くして且つ高山動物とも云ふべきヒメヒミズ *Dymecodon pyrirostris* TRUE を先年信州白馬岳の葱平(海拔 2700 米)に於て採集したり。

引 用 文 献

和 文 の 部

- 1) 1913. 青木文一郎 本邦に於ける哺乳動物の分布狀況 動物學雜誌 vol. 25, No. 300 2) 1911. 青木文一郎 日本のヒミズ、モグラ類 動・雜 vol. 23, No. 268 3) 1924. 岸用久吉 哺乳動物圖解(初版) 4) 1925. 岸田久吉 日本産陸棲脊椎動物の分布論 東洋學藝雜誌 vol. 41, Nos. 1 & 2, pp. 57—68, 131—144. (Nos. 505 & 506). 4) 1926. 岸田久吉 哺乳動物圖解(第二版)

歐 文 の 部

- 1) 1842-45. Temminck et Schlegel. Fauna Japonica. 2) Günther, A. Notes on some Japanese Mammalia. P. Z. S. pp. 440—443, 1 pl. 3) 1886. True, F. W. Description of a new genus and species of mole from Japan. Proc. U. S. Nation. Mus. vol. 9, pp. 97—98. 4) 1906. Thomas, O. The duke of Bedford's zoological exploration in eastern Asia. I. List of Mammals obtained by Mr. M. P. Anderson in Japan. P. Z. S. 1905, vol. 2, pp. 331—363. 5) 1908. Thomas, O. do. II. Tsushima. P. Z. S. 1908, vol. 2, pp. 47—54. 6) 1912. Thomas, O. do. XV. Western China. P. Z. S. pp. 127—141.

長野縣伊那高等女學校にて認む

緬羊の眼に寄生せる *Thelazia* 屬線虫の一例

三 浦 四 郎 助

大正十二年四月余は滿洲公主嶺に於てサウスダウン牝羊の結膜囊より一個の線虫を採集し、之を検するに *Thelazia* 屬の雌虫なることを知れり。其の種名に關しては雄虫を得ざるが故に確定するを得ざるも、本邦に於て未だ報告せられたるを知らざるを以つて、記して諸家の教を乞はんとす。